資料 No.4-4-4

2013 年度 小委員会活動成果報告

（2014 年　2 月　13 日作成）

小委員会名	次世代排水システム小委員会	主 査 名：　坂上　恭助 就任年月：　2012 年　4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	環境工学委員会 （建築設備運営委員会）	委員長名：田辺　新一 主 査 名：郡　　公子
設　置　期　間	2012 年　4 月　　～　　2015 年　3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	従来の非満流重力排水システムの体系に組み込まれていない、小径排水システム（サイホン排水方式、圧送排水方式、真空排水方式）や自封式トラップの諸特性を評価し、適用性の拡大の方策を検討し、設計ガイドライン案を策定する。また、東日本大震災の経験を踏まえて、自立給排水設備の構築を検討する。 ・初年度：設計ガイドラインのフレーム作り。自立給排水設備の情報収集。 ・２年度：設計ガイドラインの素案を策定。自立給排水設備の体系化を試みる。 ・３年度：設計ガイドライン案を策定。自立給排水設備の体系をまとめる。	
委員構成 （委員名（所属））	委員公募の有無：　無 主査：坂上恭助（明治大学）、 幹事：古賀誉章（東京大学）、丸山秀行（ブリヂストン） 委員：安孫子義彦（ジエス）、飯塚宏（日建設計）、石村修一（旭化成ホームズ）、 門脇耕三（明治大学）、小池道広（長谷工）、小寺定典（UR 都市機構） 佐野武仁、 下田邦雄（給排水設備研究会）、須賀良平（クボタシーアイ） 髙津靖夫（芝工業）、　早川和男（戸田建設）	
設置 WG （WG 名：目的）	・機械排水システム WG：機械排水システムの設計ガイドライン案を作成 ・サイホン排水システム WG：サイホン排水システムの設計ガイドライン案作成 ・次世代排水システム建築適用 WG：建築物への適用の可能性について検討	
2013 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：　無 委員会 HP アドレス：

項　　目	自己評価
委員会開催数	6　回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム･セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	１．建築基準法に基づく技術基準の見直し等に関する提案募集 （国土交通省国土技術政策総合研究所 建築研究部基準認証システム研究室）に対する、学会案（環境工学委員会案）の一項目の作成・提案
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１．設計ガイドラインの素案を策定する。　→達成度 100% ２．自立給排水設備の体系化を試みる。　→達成度　70%
委員会活動の問題点・課題	１．設計ガイドラインの素案づくりに注力し，対外的な活動がなかった。 ２．自立給排水設備研究において、情報収集が不足し体系化が難しかった。 ３．建築計画研究者・建築意匠設計者のさらなる参画が望まれる。

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	Ⓐ　　~~B~~　　~~C~~　　~~D~~
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	2013 年度の活動計画は､初年度に引き続き次世代排水システムの設計ガイドラインの素案づくりを行うこと、東日本大震災の経験を踏まえた自立給排水設備に関する体系化を試みることであった。 本小委員会の主目的である、設計ガイドライン策定については、傘下の「機械排水システム WG」と「サイホン排水システム WG」において、それぞれの担当部分についてたたき台を作成し、それを小委員会に報告して議論することで、作業を進めた。 その結果、本年度の目標の素案づくりという目標を大きく超え、2014 年度に予定していた設計ガイドライン第一案の策定が達成でき、当初予定より 1 年前倒しして AIJES としての刊行企画の承認と 2014 年度からの刊行小委員会の立ち上げの承認を得ることができた。よって、100%以上の目標を達成することができた。 自立給排水設備の検討については、昨年度の情報収集が不十分だったのと、設計ガイドライン策定のほうを急いだために、今年度目標の体系化を試みるには難しい状況であった。よって、目標達成度は 70%にとどまった。 以上、総合して、当小委員会の最大の目的である設計ガイドラインづくりについては予定を超えた進捗を達成しており、総合的な目標達成度は 95%程度とし、総合評価は A と自己評価した。 来年度は、新たに設置する刊行小委員会と連携しながら、早期の設計ガイドライン刊行に向けて作業を進めていきたい。また、自立給排水設備についても、鋭意検討を行っていきたい。 以上

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。